



横垣峠と水壺地蔵

平成19年7月、そして平成23年9月、大雨や台風によって大規模な地滑りが発生し、通行止めが実施され約11年ぶりの開通となった横垣峠道である。かつての神木流紋岩のきれいな石畳道は無残にも破壊されその一部を残すだけとなった。この峠道は、熊野街道を有馬で分ち、本宮道を進み御浜町神木を經由して、西ノ峰山(593m)の中腹を通る横垣峠にさしかかると一気に険しさが増す。ここからは、さしたる起伏もなく南へ進み阪本集落の折山神社に達する。

『熊野年代記』には、「人皇十代崇神天皇の六十五年、熊野有馬(花の窟)より音無郷に遷座、是本宮也」とあり、約二千年前、花の窟の御神体を熊野本宮大社に遷座したことが書かれている。その道が現在の本宮道である。『本宮記』には、約二千年前、有馬から神宝や神器を天ノ羽車に載せ、大勢の神部・天人・織姫が正月十日早朝に出発し、ほどなく出会った老婆が湯津爪櫛を差し出した。この土地名を今も熊野市久生屋(櫛屋)と呼んでいる。さらに進み村人が櫛をもって大神を迎えたところから、この地を神木という。

西ノ峰山を横断したところの坂ノ峠を境に折山と名が変わる。横垣峠道の見どころの一つに坂ノ峠から下る石

畳道がある。神木流紋岩がびっしりと敷き詰められた、かつての美しさが今十分に味わえないのは至極残念である。

横垣峠東側には、「水壺地蔵」があり「弘法の水」の言い伝えがある。そのそばの石灯籠に逸話が残る。大坂の大工・佐藤屋宗七は、職を求め旅するうちに、水壺地蔵にたどり着き心身の疲れから寝込んでしまった。夢枕に地蔵様が現れ「この峠を越えて、麓の集落に行く」と仕事が見つかる」と告げた。目覚めた宗七が麓の神木に行くと、お告げ通り仕事が見つかり舞い込み大変繁盛したというものである。水壺地蔵のおかげと宗七は地蔵を新しく建立し(現在も新旧二体の地蔵がある)、そばに石灯籠を建てた。灯籠の塔身に「嘉永三(1850)戌十二月 願主大阪屋宗七、世話人庄右衛門」と刻まれている。

尾呂志(現・御浜町上野)の富豪酒造家東勳兵衛毅軒が六名の従僕と、文化十四(1817)年伊勢路・東海道・江戸・日光・善光寺・木曾などとまわった記録がある。『関東筋名所喰ひ認り』には、毅軒・小以六人。久生屋より大雨になり、大時化...とあり、尾呂志を發ち、横垣峠を越え神木から久生屋に達したことがわかる。当時の一般的な峠越えの道である。

参考文献:『伊勢人』第133号 横垣峠・水壺地蔵/芝崎格尚



横垣峠道標

水壺地蔵

八鬼山での出来事



熊野古道からのてがみ
 47 通目



八鬼山との出会いは、今から50年程前のこと、小学校の遠足で登ったのが最初であります。当時、遠足と言え、高学年の八鬼山は定番でありまして、低学年の頃、一緒に遊ぶ先輩達が得意そうに八鬼山の様子話を話しているのを羨ましく聞きながら、遠く八鬼山へ思いを馳せたものであります。

やつと高学年になり、八鬼山頂上の大きな石に学友たちと競って登ることが出来ました。それで降度々登りましたが、その中で、今でも記憶に強く残っていることがあります。

それは、卒業を控えた中学生の頃、当時この地方に珍しく雪が降り、八鬼山は白く雪を抱いていました。学校も昼迄で終わったこともあり、悪友(笑)達と、八鬼山へ雪を見に行くぞと午後から登り始め、雪を感じながら、時には雪合戦をし、存分に楽しみました。

よんど、何処まで行くんど、大曾根と向井です。あは、こころ、ただだけかかると思つとんど、早う後ろに乗れ。言葉は尾鷲弁で随分と荒つはひのですが、その顔には笑顔があり親しみが溢れていました。すぐに、後ろの荷台に乗り、自宅近くまで送ってもらいましたが、かなりの時間トラックに乗っていた気がしました。当然、家に着いた頃は真っ暗で、もし、トラックが通りかからなかったら、そして親切な人でなかったら、そう思うと、感謝の気持ちで一杯でした。

このことは、私たちが現在無くしつつある人の心の深さを感じさせずにはいられません。私も負けず、社会に何かつても貢献出来なかつたかと思え続け、語り部や古道保全活動を始めた大きな要因の一つでもあります。

帰りは来た道を戻つても面白くないと反対側の道へ降りて行きました。着いた所は、堂の谷林道であり、そこから尾鷲方面へ帰るには、現在の県道778号線を歩かざるを得ない状況でした。しかも、周囲は少し薄暗くなつてきて、これから先はどれだけ距離があり、また何時間かかるかわかりません。多分両親には強く叱られるだろうとお互いに覚悟を決めひたすら歩きました。(芥川龍之介作の「トロッコ」の少年の気持ちもこうだったのだらうなと思いつつただ彼と違うのは、彼はひたすら走って随分と遅く村に帰つたのに比べ、我々には救いの神が現れたのです。作業を終えたトラックが止まってくれたのです。コラー、何にしー

次は紀北町の東真人さん



東真人さん
 ひがし 真人さん
 (尾鷲市)
 熊野古道語り部友の会 会長
 保全団体「八鬼山を愛する会」会長
 三重県文化財保護指導委員
 尾鷲市環境保全指導員

花尻 薫からの季節のたより No.47

ドクダミは毒痛みの意味で、庭や野山など日陰のところに多く生えます。花の開花は初夏の7月頃ですが、7月以外の月日は、日陰のじめじめとした場所に、群生せず心臓形の葉をつけています。地下には白色の円柱形のやわらかい根茎があって、長くのび、盛んに枝分かれしてふえます。花びらのように白く4枚見えますのは、総苞片といって花びらではなく、花は総苞片の中央にあり、あわい黄色の小さな花をつけます。

分布は中国から東南アジアまでの熱帯アジアの葉草です。日本国内では各地の路傍や空き地など、湿ったと



ドクダミ

ころに群生します。葉をもむと、独特の強い臭いがあり、この臭いのため「毒が入っている」という意味で「毒溜め」というのが名前の由来です。ドクダミは別名「じゅうやく」といって十葉と書き、十種類の効能があるといえます。

昔から生の葉を化膿性の「はれもの」や傷によってできる膿の吸出し用に用いてきました。

ドクダミには異名もあり、熊本県では「ヘクソカズラ」、香川県では「クサキ」、高知県では「ウマクワズ」といいます。

葉を葉草にする場合は、5~6月頃の開花期に根も含めた全草を採集して日干しにするそうです。これを十葉と呼んでいます。生の葉の場合は、膿や傷など必要に応じて採取します。

センター敷地内「夢古道おわせ」
 お母ちゃんのランチバイキング
 営業時間: 11:00~14:00
 料金: 中学生以上 1,200円
 小学生以上 700円
 4歳~小学生 300円
 4歳未満 無料
 60歳以上 1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
 深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。
 ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上がり後もポカポカです。

開館時間: 10:00~21:00
 入浴料: 一般 600円
 65歳以上 500円
 4歳~小学生 300円
 4歳未満 無料

お風呂あがりは、カフェでゆったり♪
 営業時間: 9:00~17:00
 カフェオスター 16:30

毎月26日は風呂の日 お子様は通常300円が100円でご入浴できます。

熊野古道センターからのてがみ
 2018年 夏号

●発行日: 2018年6月10日(季刊)
 ●編集・発行: 三重県立熊野古道センター
 (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
 ●編集担当: 玉村
 ●連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
 TEL 0597-25-2666
 FAX 0597-25-2667
 Mail info@kumanokodocenter.com
 ●開館時間: 午前9時~午後5時
 ●入場料: 無料
 ●休館日: 12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索

ホームページ
<http://www.kumanokodocenter.com/>
 60000180610AT

熊野古道 伊勢路 通行止め一部解除のお知らせ
 熊野古道伊勢路「横垣峠道」の一部(水壺地蔵~横垣峠)は通行が解除となりました。

●詳しくは御浜町教育委員会 TEL.05979-3-0526までお問合せください。

熊野古道センターからのてがみ
 2018年 夏号

●発行日: 2018年6月10日(季刊)
 ●編集・発行: 三重県立熊野古道センター
 (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
 ●編集担当: 玉村
 ●連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
 TEL 0597-25-2666
 FAX 0597-25-2667
 Mail info@kumanokodocenter.com
 ●開館時間: 午前9時~午後5時
 ●入場料: 無料
 ●休館日: 12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索

ホームページ
<http://www.kumanokodocenter.com/>
 60000180610AT

熊野古道 伊勢路 通行止め一部解除のお知らせ
 熊野古道伊勢路「横垣峠道」の一部(水壺地蔵~横垣峠)は通行が解除となりました。

●詳しくは御浜町教育委員会 TEL.05979-3-0526までお問合せください。

